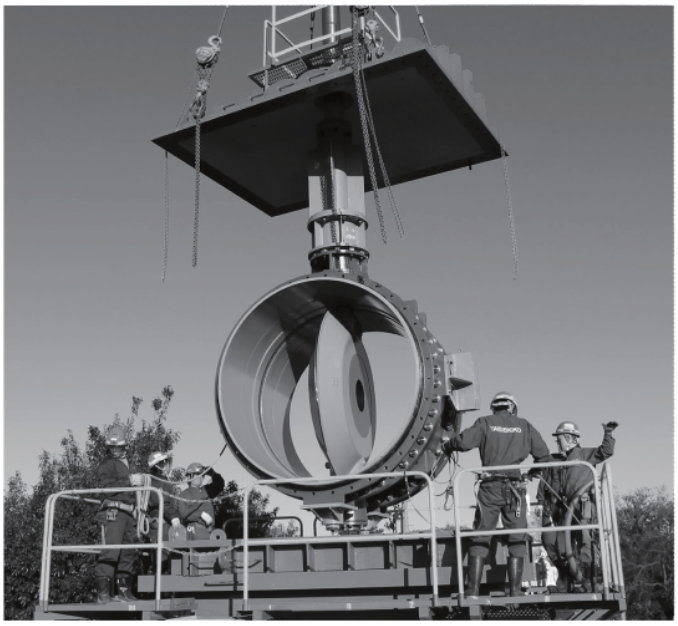
大口径インサートバルブを施工

大成機工　埼玉県企業局の送水管



インサートバルブ施工風景（規格バルブの挿入・設置）

φ2000不断水で

大成機工は昨年12月、埼玉県企業局の西部系共同幹線でφ2000の制水弁設置工事をインサートバルブ工法で施工し、無事終了した。

インサートバルブ工法は、通水状態で既設管路の一部を切断撤去し、バルブを挿入・設置する工法。切断は同社独自の専用タンク内で、バイト式パイプカッターで管の厚みのみを削り取るため①通水を阻害しない②切り屑を一切管路に混入させない③赤水を発生させない④無振動、無騒音―など多くの特長を有する。

断水して施工する従来工法に比べ、断水に伴う種々の障害を回避できるうえ、工期についても短縮が期待できるため、1977年の開発以来多くの水道事業体で採用され、実績を積み重ねている。

今回施工されたのは、埼玉県企業局大久保浄水場から県西部地区に生活用水を送水する西部系送水管路の共同幹線（鋼管・φ2000）。既設制水弁は経年劣化により全閉状態とすることができないため、今後の管路の維持管理を考慮して既設制水弁に隣接した位置に新たに制水弁を設置するもの。

施工現場は富士見市東大久保地内。昨年12月2日に着工し、既に2400件の実績を有する工法だけに、工事は極めて順調に進捗し、15日に完工した。なお、元請会社は㈱ユーディケーとなっている。

工事を発注した埼玉県の齋藤弘・大久保浄水場長は、インサートバルブ工法採用の背景について「当該送水管は、県西部地域に送水するための重要な幹線であり、断水による影響が大きいため不断水工法を採用した」と説明するとともに、施工について「水管橋の下流側に制水弁を設置する工事で、重要幹線で断水できない中での施工であったが、管切断からバルブ挿入までの工程を6時間ほどで無事完了することができた」と語っている。